

学名 - ○○科○○属

樹木全体

- ・木の高さ
- ・葉の付き方(互生、対生)
- ・常緑樹or落葉樹

樹皮

- ・色
- ・手触り
- ・剥がれ方、ひび割れの仕方

花・実

- ・色
- ・大きさ
- ・形

全体の写真

樹皮の写真

花もしくは実の写真

葉

- ・形
- ・葉脈
- ・縁の形
- ・大きさ

葉の写真(表面)

葉の写真(裏面)

○分布

○語源

○生活とのかかわり

アスナロ(*Thujopsis dolabrata*)

-ヒノキ科アスナロ属

樹木全体

- ・高木(20~30m)
- ・耐陰性がある
- ・常緑樹

樹皮

- ・赤褐色
- ・縦に薄く剥がれる
- ・剥がれ方、ひび割れの仕方

花・実

- ・花期:5月
- ・雌雄同株
- ・球果:秋に熟す



葉

- ・鱗片状
- ・十字対生
- ・表面は光沢がある
- ・濃緑色
- ・裏面は粉白色の気孔帯が目立つ



○分布

本州、四国、九州

○語源

当檜(アテヒ)→明日檜(アスヒ)→明日檜(アスハヒ)
→翌檜(アスナロ)

古代語の中にはアテヒとして出て、高貴なヒノキという意味で用いられている

○生活とのかかわり

- ・木材はやや軽軟、強烈な特徴的な匂いがある。また、心材部分の保存性が高く、よく水湿に耐える。
→建築・土木・橋梁・家具・器具・漆器木地(輪島塗)に使
- ・抗菌性のあるヒノキチオールを含む→抗菌まな板
- ・古い時代には樹皮は火縄として活躍し、水もれをふさぐ素材としても重要であった
- ・木部から採れる油の中性部分→香料(石鹼、トイレタリー)
- ・木部から採れる油の酸性部分→抗菌性薬品

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

『春の樹木』<http://www.geocities.jp/nisi175812/asunaro0.htm>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.44

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.221

アラカシ(*Quercus glauca*)-ブナ科コナラ属

樹木全体

- ・高木(10~15m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・浅い割れ目
- ・皮目が目立つ

花・実

- ・花期は4~5月
- ・雄花は花被4~6深裂
- ・おしべ4~6個
- ・果実:秋に熟す
(お椀状の殻斗をもつどんぐり)



葉

- ・葉身は厚くて硬い
- ・上半部に低い鋭い鋸齒
- ・表面は光沢
- ・裏面は絹毛が密生して灰白色
- ・葉脈がやや目立つ



○分布

本州(福島県以南)、四国、九州

○語源

枝の出方が荒い、幹に割れ目が多くて粗い感じがする、材が堅い→「粗い堅し」→「アラカシ」
「樫(カシ)」は「堅(カタ)し」と「木」を組み合わせた日本で作られた漢字

○生活とのかかわり

- ・非常に硬い
- 和太鼓のバチ、大工道具(カナヅチの柄、カンナ)、農具
- ・乾燥しにくい、気泡中に多量の窒素を含んでいるため燃えにくい、耐水性・防水性に優れている
- 船舶材としても用いられている

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>
岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.54
林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.74,75
馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.154

イチョウ(*Ginkgo biloba*)-イチョウ科イチョウ属

樹木全体

- ・高木(30~45m) ・落葉樹
- ・長枝:らせん状に互生、
- ・短枝:束生
- ・雌雄異株

樹皮

- ・淡灰褐色
- ・縦に浅く割れる

花・実

- ・花期:4月
- ・雄花:尾状で淡い黄色
- 雌花:緑色
- ・胚珠は熟して球形の種子
- ・種皮の外層に当たる肉質部は悪臭を放つ



葉

- ・扇形
- ・平行脈
- ・切れ込みが入っている
- ・表裏面ともに無毛
- ・夏には鮮やかな緑色、晩秋に黄金色に変わって落葉



○分布
中国原産

○語源

葉が、鴨の水掻きのある足に似ている

→中国名の鴨脚の、宋代の音「イーチャオ」が訛ったとされる。

○生活とのかかわり

イチョウが地球の各地で盛んに見られたのは1億5000年あまり前。しかし、氷河期がきてほとんどは滅亡し、中国にただ1種(今日見られるもの)が生き伸びた。そのため、イチョウは裸子植物中、イチョウ綱・イチョウ科・イチョウ属という植物

の大分類から小分類を通して、ただ一つの現生する種類。

・原始的な樹種のため、特異な性質がある。

→幹の太い枝のつけ根 あたりから澱粉を含んだ乳が出る

→種子が葉の上に見える種類があることである

・木理はほぼまっすぐ、加工しやすい、狂いも少ない

→碁盤、将棋盤、算盤珠、器具材(まな板)、漆器木地、建築材(天井板)、家具材

・種子(銀杏)→食用、咳止め

・葉→しおりにするとシミがつかない

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.38

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.240

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.96

イヌマキ(*Podocarpus macrophyllus*)

- マキ科マキ属

樹木全体

- ・高木(20m)
- ・互生
- ・常緑樹
- ・雌雄異株

樹皮

- ・灰色
- ・縦に浅い割れ目

花・実

- ・花期:5月
- ・果実:ほぼ球型
- ・果実:径1cm
- ・果実:白粉を帯びた緑色



葉

- ・幅は1cm前後
- ・表面：濃緑色
- ・裏：黄緑色
- ・全縁



1cm

○分布

関東地方、四国、九州

○語源

伐採した時に臭い→クサマキ(別名)

ホンマキ(コウヤマキ)より劣るという意味→イヌがついている

○生活とのかかわり

・心材と辺材の色の差はほとんどなく、木材の色は褐色を帯びた黄色から暗褐色

・年輪は注意しないと見にくい

・肌目は精で、木理は通直

・加工性は切削などは容易な方

→建築、器具

・大木になると二十メートル近くになり、巨樹巨木の類になるものもある

・保存性が高い、湿気に強い、白蟻にも強い

→沖縄や奄美では一級の建築材

・実晩秋に緑色に熟し、ブドウのような白い膜に被われる。この花托は熟すと赤や紫になり、甘い

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.62

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.233

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.119

イロハモミジ(*Acer palmatum*)

-カエデ科カエデ属

樹木全体

- ・高木(10~15m)
- ・対生
- ・落葉樹

樹皮

- ・淡灰褐色
- ・平滑
- ・わずかに縦縞の模様

花・実

- ・花期:4~5月
- ・がく片、花弁ともに5個
- ・雄花はおしべ8個
- ・果実:2個ずつできる



葉

- ・掌状に5~7深裂
- ・裂片の縁にはふぞろいの重鋸歯
- ・表面は緑色
- ・裏面は淡緑色



○分布

本州(福島県以西太平洋側)、四国、九州

○語源

カエデのカエデ科を総称したもの(「モミジ」「カエデ」は同意)
葉形が掌状にイロハニホヘトと七つにさけているところから
木の葉が色づくことの古語「もみち」→「モミジ」
カエルの手の意→「カエデ」

○生活とのかかわり

- ・四季折々に美しい情景を感じる
→庭木、盆栽、公園などの修景に広く植栽
- ・辺材は淡黄乳白色、心材は淡黄淡紅乳白色で、色調が似ている為、辺材、心材の境界は不明瞭
- ・管が詰まっているので強度はある、反りやカビの発生を防ぐために十分な乾燥が必要
→楽器、家具材など

『木のぬくもり・森のぬくもり』<http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.88

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.178, 179

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.275

ウバメガシ(*Quercus phillyraeoides*)

-ブナ科コナラ属

樹木全体

- ・低木～小高木(10~15m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・黒褐色
- ・縦に裂ける

花・実

- ・花期:4~5月
- ・大きさ
- ・果実:翌年に熟す
- ・浅いお椀状の殻斗にどんぐりができる



葉

- ・鋸歯は小さいが鋭い
- ・パリパリした質感
- ・表面は緑色
- ・裏面は灰緑色
- ・両面とも無毛



○分布

本州(福島県以南)、四国、九州

○語源

若葉が褐色であることを、老女にみたてた名

○生活とのかかわり

- ・硬い→蒲焼や焼き鳥に使う備長炭
 - ・葉は小形で刈込みに強い
- 庭木、街路樹(国会議事堂前には玉物がある)

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.52

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.71

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.151

ウメ(*Prunus mume.*)-バラ科サクラ属

樹木全体

- ・小高木(3~10m)
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・暗黒色
- ・割れ目は不揃い

花・実

- ・花期:2~3月
- ・花柄なし
- ・花弁5個
- ・果実:6月



葉

- ・表面：緑色、濃緑色で無毛
- ・裏面：淡緑色で脈腋に多く毛がある
- ・不整の鈍鋸齒



○分布
中国原産

○語源
中国語の梅(Mei)から転化して、ウメとなった言う説が有力

○生活とのかかわり

・梅には300種以上の品種があり、野梅系、紅梅系、豊後系の3系統に分類される。梅の実を採るのは主に豊後系である。

・果実

→食用(梅干し、梅酒、梅酢、梅醬やジャムなど)

→漢方薬では燻蒸して真っ黒になった実を烏梅といい、健胃、整腸、駆虫、止血、強心作用があるといわれる

・心材紅褐色、辺材黄褐色、硬い、弾力がある

→細工物(くし、数珠、印材など)、床柱など

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.74

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.54, 55

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.218

オオシマザクラ(*C. speciosa*)-バラ科サクラ属

樹木全体

- ・高木(10~15m)
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・紫褐色
- ・横長の皮目が目立つ

花・実

- ・花期:4月
- ・がく片:鋸歯
- ・花弁:ほぼ白色
- ・果実:球形、赤から黒に熟す



葉

- ・質はやや厚い
- ・表面：濃緑色、光沢がある
- ・裏面：緑色
- ・両面とも無毛
- ・鋸歯縁



○分布

本州(房総半島・伊豆半島・伊豆七島)

○語源

大島を始めとする伊豆諸島に、自生するサクラのための名

○生活とのかかわり

- ・堅く薪として火力が長持ちする。オオシマザクラは身近にあるサクラであり、薪材として植林されることもあった。
- ・自生地が海沿いであるため潮風に強く丈夫
→街路樹、公園樹、庭木
- ・磨くと光沢が出る→工芸品、家具、浮世絵の版木

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>
岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.76
林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.51
馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.226

カキ (*Diospyros kaki*) - カキノキ科カキノキ属

樹木全体

- ・高木(3~10m)
- ・互生
- ・落葉樹



樹皮

- ・暗灰褐色
- ・うろこ状の割れ目



花・実

- ・花期:5~6月
- ・子房:大きい果実には4裂したがつがが残る
- ・果実には4裂したがつがが残る



葉

- ・質: やや厚い
- ・全縁
- ・全体に毛が生える
- ・表面: 濃緑色、光沢がある
- ・裏面: 灰緑色



○分布

本州、四国、九州

○語源

赤い実のなるさまから、赤き実あるいは、赤木が略されて「カキ」になった。

○生活とのかかわり

・果樹のため植栽され剪定されていることが多い

・重硬

→建築装飾材、家具、器具など

→黒色のものは黒檀の代用として珍重される

・葉

→薬用(高血圧、咳、内出血の止血。5～6月に採取、蒸して陰干しにして細かく刻んで用いた。)

→抗菌作用(お弁当のおにぎりを包む、寿司を包むなど)

・渋→渋紙と塗料

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.103

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.110,111

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.347

カツラ(*Cercidiphyllum japonicum*)

-カツラ科カツラ属

樹木全体

- ・高木(25~30m)
- ・対生
- ・落葉樹

樹皮

- ・暗灰褐色
- ・若木では平滑で、横長の皮目が目立つ
- ・老木では。縦に裂け、薄片状に剥離する

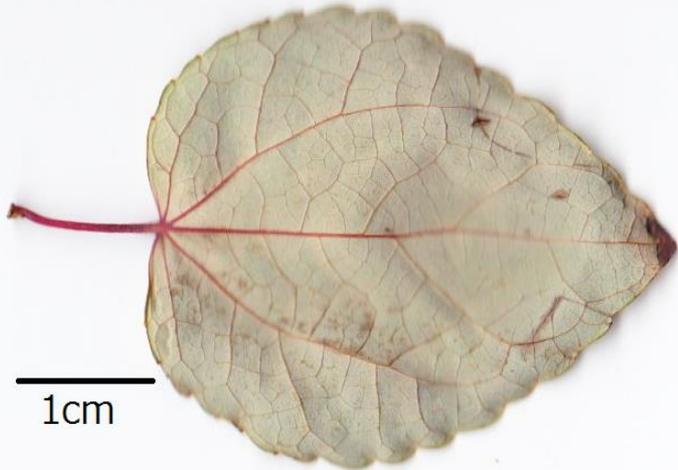
花・実

- ・花期:4~5月
- ・葉腋に小さな花を開く
- ・花弁もがくもない
- ・基部は苞に包まれる



葉

- ・表面：緑色
- ・裏面：帯白緑色
- ・両面とも無毛
- ・細かい波状の鋸齒
- ・葉先は円頭



○分布

北海道、本州、四国、九州

○語源

カツラの落葉には芳香がある。カツは香出とする説がある。葉は抹香にする。別名のコウノキはここから。

○生活とのかかわり

- ・水分の多い肥沃な土地を好み、溪流沿い等によく生える
- ・新緑の葉の美しさ→公園や並木でもよく見られる
- ・加工しやすい、狂いも少ない
 - 家具の内部の棚板、
- ・心材は褐色、やや軽軟で狂いが少なく加工しやすい
 - 建築、製図板、張板、漆器木地、琵琶の胴、帽子の型、寄木、木象嵌、薪炭など
 - 昔はよく裁縫用の台の板として使われていた
- ・軟らかい
 - 彫刻がしやすくきれいにしあがるので看板用の板としても使っている

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.152

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.183

カナメモチ(*Photinia glabra*)

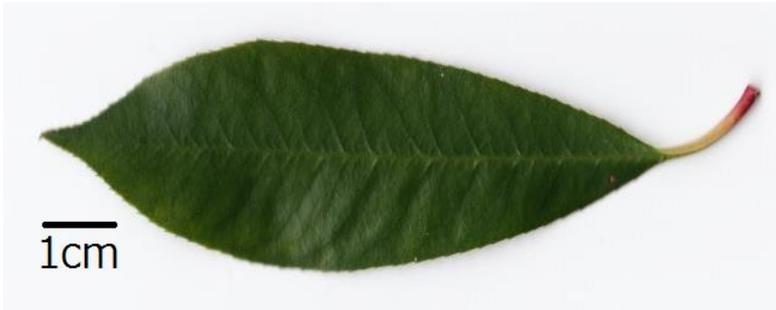
- バラ科カナメモチ属

樹木全体	樹皮	花・実
<ul style="list-style-type: none">・低木～小高木(5~10m)・互生・常緑樹	<ul style="list-style-type: none">・はじめは灰褐色・古くなると暗褐色・浅い割れ目	<ul style="list-style-type: none">・花期:5~6月・白色の小花を密につける・花の柄、がく:無毛・がく:皿形 ・がく片:5個・果実:球形、紅色に熟す



葉

- ・鋸齒は小さいが鋭い
- ・表面：濃緑色
- ・裏面：淡白緑色
- ・両面とも無毛



○分布

本州(東海以西)、四国、九州地

○語源

材が硬いので、昔、扇の要に使われていたから
別名の赤芽蘂がなまったため

○生活とのかかわり

- ・新芽が赤く綺麗→生垣、庭木

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>
岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.73
林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.65
馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.242

カナリーヤシ(*Phoenix canariensis*)

-ヤシ科ナツメヤシ属科

樹木全体

- ・高木(7~10m)
- ・常緑樹
- ・雌雄異株

樹皮

- ・葉あとが波状の模様になって残る

花・実

- ・花期:夏
- ・雄花:淡黄色、密に集まる
- ・雌花:黄色、雄花より小さい
- ・果実:楕円形、赤みをおびた黄色



葉

- ・幹の上部にらせん状に密集してつく
- ・大型の羽状複葉



○分布

北アフリカ西岸(カナリー諸島)原産
日本で栽培されているのは、ほとんどが雑種

○語源

カナリー諸島原産の「ヤシ」という意味

○生活とのかかわり

・比較的耐寒性があり、関東以西で地植え可能、成長はきわめて遅い→公園樹、街路樹、庭木、幼木は観葉の鉢植え

『身近な植物図鑑 カナリーヤシ』 <http://sorairo-net.com/plant/10/2007/047.html>

『カナリーヤシ』

http://www.zoezoe.biz/2010_syokubutu/ka_7_ya/122_yashi/phoenix/canarie_yashi.html

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.114

カラタネオガタマ (*Michelia figo*)

- モクレン科オガタマノキ属

樹木全体

- ・小高木(3~5m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・樹皮は灰褐色
- ・割れ目はない
- ・縦横に皺が入り滑らか

花・実

- ・花期5~6月
- ・花:葉腋に淡黄色
- ・花弁、がく片:縁が紅色を帯びる
- ・果実:10~11月には熟して裂け、赤い種子を出す



葉

- ・若枝や葉柄に褐色の毛が多い
- ・全縁だが少し波うつ
- ・表面：濃緑色、光沢がある



○分布

中国南部原産

○語源

日本産のオガタマノキは、神社でよく植えられ、神前に供えて神霊を招くとされる。招霊(オキタマ)が転じた名。

中国産のオガタマノキの意。

○生活とのかかわり

・樹高がある程度の大きさで収まる、枝葉がよく茂る、花の香りがよい→庭木、生垣

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『春の樹木』 <http://www.geocities.jp/nisi175812/bbkarataneogatama.htm>

カワヅザクラ - バラ科サクラ属

(*Prunus lannesiana* cv. *Kawazu-zakura*)

樹木全体

- ・高木
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・樹皮は紫褐色
- ・光沢がある
- ・若枝は褐色で無毛

花・実

- ・花期: 1~2月
- ・花: 淡紅紫色
- ・果実: 球形、黒紫色に熟す



葉

- ・縁は単鋸刃で、重鋸刃が混ざる
- ・表面は濃緑色
- ・裏面は淡緑色
- ・両面ともに無毛



○分布

伊豆半島南部の河津町、石廊崎など

○語源

静岡県河津町で発見された桜

○生活とのかかわり

・オオシマザクラとカンヒザクラが自然交配された種類だと言われる。

→カンヒザクラの遺伝子から、早く(2月頃)から花を咲かせ、1ヶ月ぐらいと長く(1か月ほど)花が咲き続ける。

→オオシマザクラの遺伝子から、ソメイヨシノに比べて花が大きい

⇒花が美しく開花も早い→公園などによく植えられている

『カワヅザクラ(河津桜)』 http://happamisaki.jp-o.net/flower/k/k_sakura.htm

『身近な植物図鑑』 <http://sorairo-net.com/plant/02/2007/013.html>

カンツバキ(*Camellia × hiemalis*)

- ツバキ科ツバキ属

樹木全体

- ・低木(1~2m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・色
- ・手触り
- ・剥がれ方、ひび割れの仕方

花・実

- ・花期:10~12月
- ・花:紅色、八重咲き



葉

- ・鋭い鋸歯
- ・表面：濃緑色、光沢がある
- ・裏面：毛がある



○分布

四国南西部、九州、南西諸島に分布する日本固有種

○語源

冬に咲くツバキ科の植物であることから

○生活とのかかわり

・サザンカとツバキから生まれた園芸品種。サザンカの仲間とされている

・ヤブツバキなどに比べて樹高が大きくなり、枝が横に伸びる性質があることや自然に形が整いやすい
→一般家庭の庭木として広く使われている

『庭木図鑑』 <https://www.uekipedia.jp>

『カンツバキ』 <http://kawasakimidori.main.jp/webzukan/kantubaki.html>

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.62

キンカン(*Fortunella crassifolia*)

- ミカン科キンカン属

樹木全体	樹皮	花・実
<ul style="list-style-type: none">・低木(1~2m)・互生・常緑樹	<ul style="list-style-type: none">・茶褐色・縦に裂け目	<ul style="list-style-type: none">・花期:7~10月・花:白色、直径は5~8mm程・果実:直径が2~3cm、冬に橙黄色に熟す



葉

- ・葉身は楕円形で革質
- ・縁は浅い鋸歯か、ほとんど全縁
- ・縁の形葉柄の翼は、無いかごく狭い。



○分布

中国原産

○語源

中国名の金柑を音読みにしたものの

○生活とのかかわり

・果実が球形なことからマルキンカンと呼ばれる

・果実

→加工(ジャム、マーマレード、砂糖漬け、焼酎漬け)、干しキンカン(果実を水で洗い、蒸し器で5分ぐらい蒸し、糸を通して軒先などにつるして乾燥させる)

→解熱に効果(かぜの初期などに、さかずき1-2杯の果汁を湯のみ茶わんに入れ、さかずき半分ほどのおろしショウガを加え、熱湯を注いで5分後に飲んで寝る)

せき止め(果実4個とナンテンの実10個をつきくだき、コップ2杯の水で半量に煮つめ、かすを除いて飲む)

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『庭木図鑑』 <https://www.uekipedia.jp>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

キンモクセイ(*Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus*)

- モクセイ科モクセイ属

樹木全体

- ・低高木(3~5m)
- ・対生
- ・常緑樹
- ・雌雄異株

樹皮

- ・暗灰褐色
- ・皮目が多く目立つ

花・実

- ・花期:10月
- ・花:橙黄色の小花が密集
- ・香りが強い



葉

- ・質：ややかたい
- ・全縁、先の方に細かい鋸齒
- ・表面：濃緑色、光沢がある
- ・裏面：淡緑色
- ・両面とも無毛



○分布

中国原産、本州(関東以西)、四国、九州に植栽

○語源

幹の模様が犀に似ているとして、木犀の字が当てられた

○生活とのかかわり

- ・散った花を集めて乾燥させたもの→酒や茶の香り付け
- ・乾燥花はポプリの材料として利用することもできる
- ・強い芳香をもつ→庭木

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.106

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.131

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.359

クスノキ(*Cinnamomum Camphora*)

- クスノキ科クスノキ属

樹木全体

- ・高木(15~20m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・暗褐色
- ・縦にわれる
- ・割れ目は細かい

花・実

- ・クリーム色
- ・小さい
- ・花被は6つに分かれている
- ・緑色の小さな実→7、8mmの大きさになり、黒く熟す



葉

- ・不分裂
- ・3つに分かれている
- ・全縁
- ・表面に光沢がある
- ・裏面は白っぽい



○分布

本州中南部から四国、九州、沖縄

○語源

独特な芳香を持つ→「臭し(くすし)木」

クスノキの葉や煙→防虫剤や鎮痛剤に→「薬の木」

○生活とのかかわり

・葉や幹、根皮から樟腦の原料が採れ、古くから家具材として利用
(現在では樟腦のにおいが嫌いな人が増えた為、においを消す処理を行ったものが多い。また、樟腦は化学合成で生成することが出来るので、現在は原料採取のためにクスノキを植えることはない。)

・刃が通りやすい→彫刻などの材料としても使用

・建築材や家具材としても利用

(古い時代の仏像にはクスノキ材のものが多い)

・街路樹や校庭に植えられたりと、公共緑化樹としての利用が多い

・大気汚染に強く、病虫害耐性も高い

・日本の気候(主に暖地)にあった木。

しかし、30mを越えるものもあり庭木としては不向き。

『クスノキ』 http://www.yasashi.info/ku_00036.html

『木材博物館 クスノキ』 <http://www.wood-museum.net/kusunoki.php>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.62

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.84

クリ(*Castanea crenata*) - ブナ科クリ族

樹木全体

- ・高木(5~15m)
- ・互生
- ・落葉樹



樹皮

- ・暗灰色
- ・若いうちはやや平滑
- ・しだいに縦の割れ目が目立つ



花・実

- ・花期:6月
- ・果実:秋に熟す、総包がい
がとなる



葉

- ・全縁
- ・表面：緑色、毛が少ない
- ・裏面：帯白緑色、葉脈上に長い毛



○分布

北海道、本州、四国、九州

○語源

樹皮や殻が栗色だから、と言う説明は循環している。
「クリ」とはもともと石の意で、堅い殻を指す

○生活とのかかわり

・弾力性に富み、狂いが少ない、耐朽・保存性はきわめて高い、水湿に耐える。

→まれにフェンスの材料として使われる

→上り框や床柱など装飾性のあるところ

→建築、彫刻材、薪炭材

・果実

→食用(秋に熟すと茶色になり、イガが割れて種子がこぼれる)

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.60

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.112, 113

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.166

クロマツ(*Pinus thunbergii*)

- マツ科マツ属

樹木全体

- ・高木(20~30m)
- ・短枝には2本の葉が束生
- ・常緑樹
- ・雌雄同株

樹皮

- ・灰黒色
- ・厚い
- ・亀甲状に割れる

花・実

- ・花期:4月下旬~5月上旬
- ・雄花:新枝の基部に多数側生
- ・雌花:頂生



葉

- ・針状
- ・横断面は半円形
- ・縁の形



○分布

本州、四国、九州

○語源

樹皮が黒いマツの意

「マツ」→門松に見られるように神を「待つ」、神を「祀る」、常緑であることからマトノキ「真常木」、久しきを「待つ」、「保つ」の意であるとする説などがある

○生活とのかかわり

・乾燥しやせた荒地や、他の樹木は枯れてしまったような二次林によく育つタフな木

→木材としての経済林

→防風林、土砂防止林

塩にも耐えられる→潮風の強い浜にも植えられる

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.39

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.229

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.99

ケヤキ(*Zelkova serrata*)

- ニレ科ケヤキ属

樹木全体

- ・高木(20~30m)
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・若木:灰色、滑らか
- ・歳をとるにつれてうろこ状に剥がれる

花・実

- ・花期:4月
- ・果実:ゆがんだ球形



葉

- ・表面：濃緑色、光沢がある
- ・裏面：灰白色、淡緑色
- ・両面とも葉脈上に毛がある
- ・鋭い鋸歯がある



○分布

北海道(西南部)、本州、四国、九州

○語源

ケヤケキ木(目立つ木)の変化したもの。

漢字の櫟は、中国ではサワグルミの一種カンポウフウに付けられた

○生活とのかかわり

- ・大木になり、街路樹や庭木などとしてよく植えられている
 - ・強度があり、硬い、心材は水湿に対して保存性がきわめて高い、仕上げ面を磨くとよい光沢が出る、木目が美しい
- 建築材, 家具材, 臼・杵など

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.55

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.37

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.154

コブシ(*Magnolia praecocissima* Koidz.)

-モクレン科モクレン属

樹木全体

- ・高木(10~15m)
- ・互生
- ・落葉樹



樹皮

- ・灰色
- ・平滑
- ・若木では裂け目なし



花・実

- ・花期:3~4月
- ・白い花が一面に咲く
- ・果実:10月ごろ裂け、白い糸のついた赤い種子が垂れ下がる



葉

- ・表面：濃緑色、はじめは微毛があり後に無毛
- ・裏面：灰緑色、毛は葉脈沿いに残り、脈腋にやや多い
- ・鋸歯縁 ・葉先は鋭尖頭



○分布

本州、四国、九州

○語源

集合果がこぶ状で、拳に似ているため

○生活とのかかわり

- ・切削・加工は容易、表面仕上は良好、やや硬い
→漆器木地、裁板、図板、杓子、箸、鉛筆の軸木、マッチ、軸木、下駄、経木、印判など
- ・太いもの→皮つきのまま茶室の床柱、タルキ
- ・花→生附子という薬品や染料をとる

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.56

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.42, 43

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.158

ゴヨウマツ(*Pinus parviflora*)-マツ科マツ属

樹木全体

- ・高木(20~30m)
- ・らせん状に互生
- ・常緑樹
- ・雌雄同株

樹皮

- ・若木:滑らか、明るい灰色から灰褐色
- ・老齢個体:くすんだ灰色、うろこ状に大きく裂ける

花・実

- ・雄花:ピンク色(7~10mm)
- ・毬果:4~7cmの卵型、はじめは緑色で熟すと茶色になる



葉

- ・針状 ・細長い
- ・5本ずつ束になる
- ・縁の形
- ・大きさ



○分布

北海道、本州、四国、九州

○語源

葉が5本ずつ束になっていることから「五葉松」

○生活とのかかわり

- ・針葉は5出葉で短く柔らかく、青緑色で観賞価値が高い
→盆栽にされることでの知名度が高い
- ・軟らかで、切削加工性がよく、製品に狂いが出難い
→木型用材としての用途にすぐれている
- ・狂いは少ない、切削加工は容易、保存性は低い
→建築・器具・楽器・船舶・彫刻など

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.227

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.98

サザンカ(*Camellia sasanqua*)

- ツバキ科ツバキ属

樹木全体

- ・小高木(3~13m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・灰褐色
- ・平滑

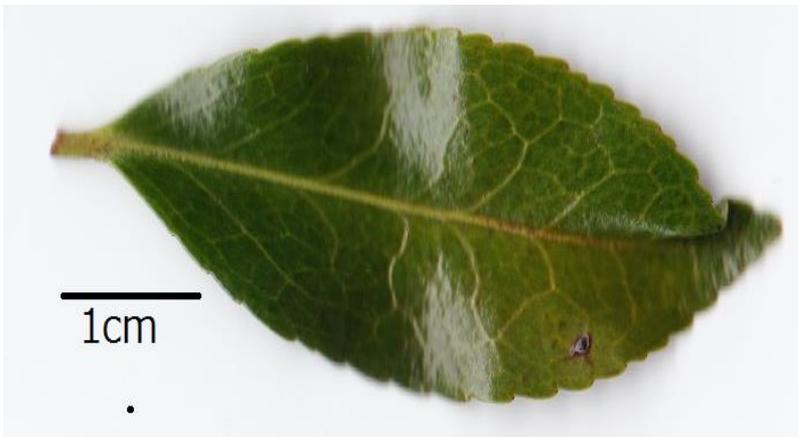
花・実

- ・花期:10~12月
- ・花:白、薄紅色
- ・花弁は1枚ずつ落ちる



葉

- ・表面：濃緑色、光沢がある
- ・裏面：淡緑色
- ・両面とも葉脈上に短毛
- ・細鋸歯 ・葉先は鋭頭



○分布

本州(山口)、四国、九州

○語源

語源は不明。

○生活とのかかわり

- ・ 10月から12月といった他の花がなくなった時期に開花
→庭木、生垣、盆栽、切り花として喜ばれている
- ・材は小細工物に適し、薪炭材としても使われていた
- ・種子→不乾性油を含む。木実油といって、伊勢神宮の燈油にもされていた

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.65

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.63

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.194

サツキ(*Rhododendron indicum*)

- ツツジ科ツツジ属

樹木全体

- ・低木(0.5~1m)
- ・互生
- ・半常緑

樹皮

- ・灰褐色

花・実

- ・花期:5~6月
- ・花:朱赤色、紅紫色
- ・果実:長卵形、褐色の毛が密生



葉

- ・表面：緑色
- ・裏面：灰緑色
- ・両面とも毛がある(裏面は葉脈上にある)
- ・全縁 ・葉先は鋭頭



○分布

関東以西、四国、九州

○語源

旧暦の5月(皐月)の頃に一齐に咲き揃うところから

○生活とのかかわり

- ・本来は溪流沿いの岩の上に生育し、増水時に水をかぶっても引っかからないような低い姿勢で生育していたものと思われ、いわゆる溪流植物の特徴を備えている
- ・葉が細かく、枝が柔らかい、常緑樹であり、一年を通じて変化が少ない→庭木、盆栽

『庭木図鑑』 <https://www.uekipedia.jp/>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.102

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.98

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.333

サルスベリ(*Lagerstroemia indica*)

-ミソハギ科サルスベリ属

樹木全体

- ・小高木(3~7m)
- ・対生、亜対生、互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・すべすべ
- ・表面は薄く、はげ落ちて白い模様をつくる

花・実

- ・7~9月
- ・花:紅紫色、白色
- ・密に咲く
- ・果実:球形、ややかたい



葉

- ・表面：濃緑色、主脈上にわずかに毛がある
- ・裏面：淡黄緑色、葉脈上に毛がある
- ・全縁 ・葉先は円頭



○分布
中国原産

○語源
樹皮が滑らかで、サルでも滑りそうのため。本種が渡来する前は、シャラノキ(ナツツバキ)がサルスベリと呼ばれていた。中国名の百日紅は、比較的長い間紅色の花が咲いていることから。

○生活とのかかわり
・1つの花は1日花(実際には数日)だが、次々に花が開くため、長い間咲いているように見える
→庭木、公園

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>
岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.
林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.95
馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.316

シダレザクラ(*Prunus pendula Maxim*)

- バラ科サクラ属

樹木全体

- ・高木(20~25m)
- ・互生
- ・落葉樹
- ・枝が長くのびて垂れ下がる

樹皮

- ・灰褐色
- ・横筋が入る
- ・小さく横に裂ける

花・実

- ・花期:3~4月
- ・花:淡紅色



葉

- ・表面：濃緑色、はじめは毛があるが、のちに無毛か散生する
- ・裏面：淡緑色、毛は葉脈上
- ・鋭い不整の鋸歯縁



○分布

本州、四国、九州

○語源

紅色の花をつけた枝垂れ桜

○生活とのかかわり

・その花の美しさから、帯の巻き方にしだれ桜むす帯というものもあり、古くから日本人に親しまれてきた。寿命が長い。

→庭植え、鉢植え

『趣味の花図鑑』 <http://members3.jcom.home.ne.jp/arima1/shidarezakura.html>

『春の樹木』 <http://www.geocities.jp/nisi175812/sidarezakura0.htm>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.76

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.227

シマトネリコ(*Fraxinus griffithii*)

- モクセイ科トネリコ属

樹木全体	樹皮	花・実
<ul style="list-style-type: none">・高木・対生・常緑樹(落葉することもある)	<ul style="list-style-type: none">・灰褐色・うろこ状にはがれる	<ul style="list-style-type: none">・花期:5月下旬~7月・小さな白花が房のように咲く



葉

- ・羽状複葉
- ・表面：明るい緑色、光沢がある
- ・両面とも無毛



○分布
沖縄

○語源

島＝沖縄などの南国諸島にある、トネリコ(戸鍊子)という意味。トネリコの由来は諸説ある。1つは、写径を行う際に、本種の皮を煮て膠(にかわ)状にして、そこに墨を混ぜて練ったものを使ったことから、トモネリコ(共練濃)が転訛したとされる。

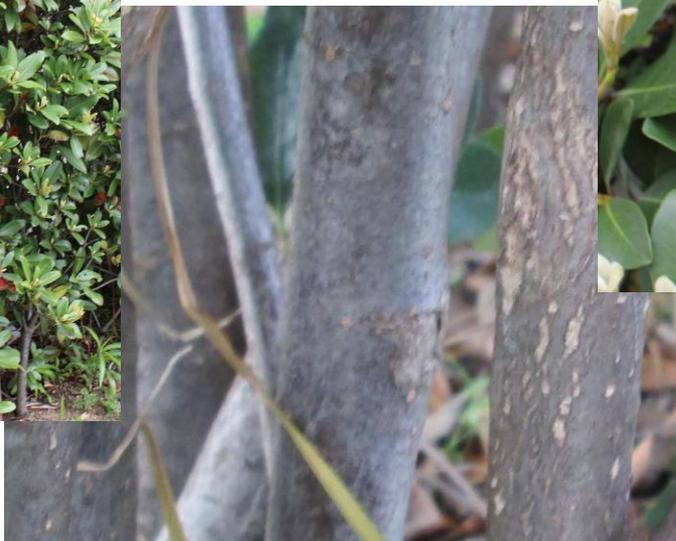
○生活とのかかわり

- ・トネリコ属では数少ない常緑樹、美しい小葉が規則的に並ぶ奇数羽状複葉から降り注ぐ木もれ日が、涼しげでさわやかな印象を与え、人気である
- 庭木、街路樹

シャリンバイ(*Rhaphiolepis indica*)

- バラ科シャリンバイ属

樹木全体	樹皮	花・実
<ul style="list-style-type: none">・低木(1~4m)・互生・常緑樹	<ul style="list-style-type: none">・淡褐色・なめらか	<ul style="list-style-type: none">・花期:5~6月・花:白色・果実:球形、黒紫色



葉

- ・葉柄が赤い(赤くないものもある)
- ・全縁、鈍い鋸齒
- ・質:厚い、かたい
- ・表面:濃緑色、光沢がある
- ・裏面:淡黄緑色



○分布

本州(山形県、宮城県以南)、四国、九州

○語源

枝が車輪のスポークのように、一カ所から何本も出ることから
白い五弁の花を車輪状に咲かせることから

○生活とのかかわり

・潮害に強く、暖地の海岸近くに自生する高さ1m内外の常緑
低木→庭木、公園

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.78

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.70

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.241

ジンチョウゲ (*Daphne odora*)

- ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属

樹木全体	樹皮	花・実
<ul style="list-style-type: none">・低木(1~2m)・互生・常緑樹	<ul style="list-style-type: none">・暗褐色・非常に強い	<ul style="list-style-type: none">・花期:5~6月・がくの外面は紫紅色、内面は白色



葉

- ・表面：濃緑色
- ・裏面：白緑色
- ・全縁
- ・葉先は鋭頭、鋭尖頭



○分布

本州(静岡県以西)、四国、九州

○語源

花の香りをジンコウ(沈香)とチョウジ(丁子)に例えたための名

○生活とのかかわり

- ・早春を彩る芳香低木→庭木、公園樹
- ・花→漢方では瑞香花と呼び、乳がんの初期、歯痛、咽喉痛、神経痛の薬にする

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.94

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.313

ソテツ(*Cycas revoluta*)-ソテツ科ソテツ属

樹木全体

- ・低木～小高木(1～4m)
- ・葉の付き方(互生、対生)
- ・常緑樹
- ・雌雄異株

樹皮

- ・幹の表面は古い葉のあとでおおわれている

花・実

- ・花期:7~8月
- ・雄花:細長い楕円体
- ・雌花:キャベツの様な形、先が裂けている



葉

- ・長さ0.50~2mと大きい
- ・羽状複葉
- ・先端は鋭くとがる



○分布

九州南部、沖縄県に自生

○語源

ソテツとは植物が衰弱しかけたときに、根元に鉄くずを埋めたり、幹に鉄釘(くぎ)を打ち込んだりすると、衰弱しかけた植物が蘇生(そせい)することから

○生活とのかかわり

- ・種子、幹→粉が多く、古くから食用として利用されてきた。しかし、有毒物質が含まれており、時間をかけて十分に解毒処理を施す必要があるため、可能ならば食用にはしない方がよいとされる
- ・葉、種子、茎、花、根→中国では、漢方薬として利用
 - 葉→胃薬や血止め
 - 根、花→咯血や打ち身など
 - 種子→腰痛・打ち身など

『ソテツ』 http://www.flowers-beauty.com/007_flowers/sotetsu/sotetsu_3.htm

『薬用植物一覧表』 <http://www.e-yakusou.com/sou/sou255.htm>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.38

ソメイヨシノ(*C. × yedoensis* Matsumura)

-バラ科サクラ属

樹木全体

- ・高木(7~8m)
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・灰褐色
- ・横に長い皮目が目立つ

花・実

- ・花期:3月下旬から4月
- ・花弁:5個
- ・果実:まれにできる、球形、黒紫色



葉

- ・質:薄い
- ・縁に二重鋸齒
- ・表面:濃緑色、無毛、わずかに散生
- ・裏面:淡緑色、毛は葉脈上にある



○分布

北海道、本州、四国、九州

○語源

明治初年に東京の染井の植木屋が、吉野桜の名で売り出し、のちに染井吉野と名付けられた

○生活とのかかわり

・エドヒガン系の桜とオオシマザクラの交配で生まれたサクラの園芸品種であり、全国に最も広く植栽されている
→庭木、公園樹、街路樹

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.75

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.50

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.226

タイサンボク(*Magnolia grandiflora*)

- モクレン科モクレン属

樹木全体

- ・高木(10~20m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・灰褐色
- ・滑らか
- ・老木になると不規則に薄く剥げる

花・実

- ・花期:5~6月
- ・花:白い、大きい
- ・芳香がある



葉

- ・表面：濃緑色、光沢がある、無毛
- ・裏面：鉄さび色の細かい毛が密生
- ・全縁で大きな波状
- ・葉先は鈍頭



○分布

北アメリカ原産

○語源

寒さにも強く、姿全体が泰然としているため

白蓮木(はくれんぼく)は花形がハスの花のように見えることから

○生活とのかかわり

・純白の大輪花が芳香を放つところから、またたく間に全国に普及

→庭木、街路樹

・芳香を得ようと、古くから蒸留とか溶剤抽出が繰り返されたが得る数量が少なくて企業化されていない

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.61

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.96

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.168

ツバキ(*Camellia japonica*)

- ツバキ科ツバキ属

樹木全体

- ・高木(10~15m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・灰白色
- ・平滑

花・実

- ・花期:2~4月
- ・花弁:5個
- ・果実:球形



葉

- ・厚い
- ・表面：光沢がある
- ・細かい鋸歯
- ・大きさ



○分布

本州、四国、九州、沖縄

○語源

厚葉木(アツバキ)あるいは、艶葉木(ツヤバキ)から変化した名

○生活とのかかわり

- ・切削・加工は困難であるが、旗作には適する。
- ・過去にはツゲの代用として細工物やこけしなどに使われた。
- ・近年は備長炭の代用として高級な炭に使用されている。
- ・銘木としては、皮膚を生かして皮付丸太として床柱、壁止めなどに使用される
- ・実→椿油

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/wood/>

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.62

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.

トウジュロ(*Trachycarpus wagnerianus*)

-ヤシ科シュロ属

樹木全体

- ・高木(3~6m)
- ・常緑樹
- ・雌雄異株

樹皮

・幹は葉柄基部にあった暗褐色の繊維網で密に覆われているが、成長するにつれて下部は露出する

花・実

- ・花期:5~6月
- ・果実:やや平たい球形、緑黒色



葉

・葉身：扇形、基部近くまで多数に裂ける



○分布

中国南部原産

○語源

「シュロ」の名は、漢名の「棕櫚」を日本語読みした名
「唐」は、中国南部原産の外来種であるから

○生活とのかかわり

・シュロは、民間で、葉や果実などを乾燥させたものに、止血などの効能があるとされている。中国では「トウジュロ」も同様に利用される。

『トウジュロ』 <http://www.geocities.jp/tama9midorijii/ptop/todop/toujyuro.html>
岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.114

ナツツバキ (*Stewartia pseudocamellia*)

- ツバキ科ナツツバキ属

樹木全体

- ・高木(10~15m)
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・まだらにはがれる
- ・橙色、茶色、灰色などが入り混じった模様
- ・若い木は樹皮があまりはがれない

花・実

- ・花期:6~7月
- ・白い花
- ・果実:球形、秋に熟すと5裂開して種子を出す



葉

- ・表面：緑色、毛は散生、無毛
- ・裏面：淡緑色、長毛が散生、葉脈上にやや多い
- ・低い鋸齒
- ・葉先は鋭尖頭



1cm

○分布

本州(宮城県以南)、四国、九州

○語源

夏に花が咲くツバキであるから

別名のシャラノキは仏教の聖樹、フタバガキ科の娑羅双樹に擬せられ、この名がついたといわれている

○生活とのかかわり

・幹は樹皮が灰褐色で薄く滑らかで花とともに高い観賞価値があるとされている→庭木、公園樹

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.196

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.60, 61

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.66

ナンテン(*Nandina domestica*)

-メギ科ナンテン属

樹木全体

- ・低木(1~3m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・褐色
- ・縦の溝がある
- ・上部に枯れた葉の基部が残る

花・実

- ・花期:6月
- ・花:小型で白色
- ・果実:球形、赤く熟す



葉

- ・3回3出複葉
- ・表面：濃緑色、光沢がある
- ・裏面：淡黄緑色
- ・全縁 ・先端は鋭尖頭



○分布

本州(東海以西)、四国、九州

○語源

中国名を南天燭、南天竹といい、この音読みから

○生活とのかかわり

・「難を転ずる」

→邪気を払うために門口や玄関廻りに植栽された

→不浄を清める意味で手水鉢や便所近くに植栽された

・耐陰性→家の陰になる北側の庭にもよく使われている

・種子→せき止めの作用(アルカロイドのドメスチンが含まれる)がある。生薬の南天実には白実と、赤実とがあるが、どちらも薬効は変わらない。

・葉→浴湯剤として、湿疹、かぶれによい

・赤飯の上にナンテンの葉をのせる風習がある。

→赤飯の腐敗が予防できる

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

『ナンテン(南天)』 <http://matsue-hana.com/hana/nanten.html>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.61

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.187

葉

- ・表面：緑色、毛は前面に散生
- ・裏面：粉白色、毛は葉脈上
- ・全縁、大きな波状
- ・葉先：急鋭尖頭



○分布

アメリカ原産

○語源

ミズキの仲間では花が目立つことから

別名のアメリカヤマボウシはアメリカ原産で日本の近縁種のヤマボウシに似ていることから

○生活とのかかわり

・日本における植栽は、1912年に当時の東京市長が、アメリカワシントンD.C.へ桜(ソメイヨシノ)を贈った際、1915年にその返礼として贈られたのが始まり。

・観賞期間も長く、秋の紅葉や赤熟した果実なども楽しみ、自然に樹形が整う木である

→街路樹、公園木、庭木

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.98

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.122,123

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.

ヒイラギ(*Osmanthus heterophyllus*)

- モクセイ科モクセイ属

樹木全体

- ・小高木(2~6m)
- ・対生
- ・常緑樹

樹皮

- ・淡灰褐色
- ・縦方向の割れ目が菱形状に入る
- ・大きめの丸い皮目が点在

花・実

- ・花期:11月
- ・花:白色の小花
- ・果実:楕円形、翌年7月に紫黒色に熟す



葉

- ・表面：濃緑色、光沢がある、毛は葉脈上にある
- ・裏面：淡緑色、無毛
- ・成木：全縁、鋭頭
- ・若い木：2~5対の葉牙がでる、針状の鋭尖頭



○分布

本州(関東以西)、四国、九州

○語源

葉に棘があり、触ると痛いので、疼(ヒヒラグ)木と書いたことから。柗の字は略されたもの。

○生活とのかかわり

・古くから厄除魔除けに用いる木

→門口や庭の入り口に対植

・邪鬼の侵入を防ぐ意味で、節分にはイワシの頭をつけて枝葉を戸口に挿した。

・材が緻密で堅い→楽器、印鑑、くし、ソロバンの玉など

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.106

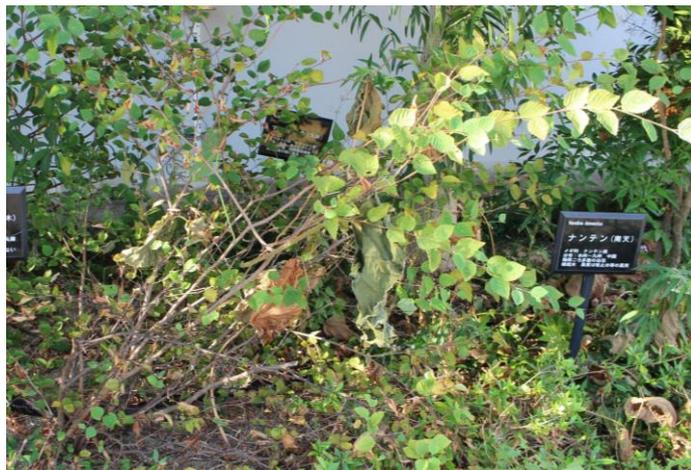
林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.132

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.358

ヒュウガミズキ(*Corylopsis pauciflora*)

- マンサク科トサミズキ属

樹木全体	樹皮	花・実
<ul style="list-style-type: none">・低木(1~2m)・互生・落葉樹	<ul style="list-style-type: none">・灰褐色・なめらか	<ul style="list-style-type: none">・花期:3~4月・花:黄色、2~3個つき枝から垂れる



葉

- ・表面: 無毛
- ・裏面: やや白色、脈上にねた毛がある
- ・波状、鋸齒縁



1cm

○分布

本州(石川・福井・岐阜・京都・兵庫各県)、四国、九州

○語源

トサミズキに対して小さいので、ヒメミズキが訛った
自生発見が京都付近なので、「日向守光秀」から

○生活とのかかわり

柔らかい葉を、横に広げ、若葉の頃は赤みを帯びて美しく、花
期から初夏まで楽しめる

→庭木、公園

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.69

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.199

ビワ (*Eriobotrya japonica*) - バラ科ビワ

旌

樹木全体

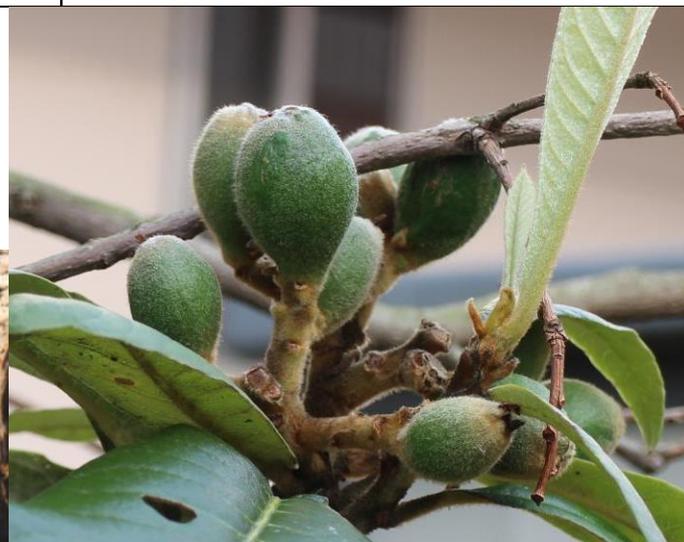
- ・小高木(5~10m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・灰褐色
- ・細かい縦の皺がある。
- ・老木になると剥げて、斑紋ができる

花・実

- ・花期:11~12月
- ・花:白色、多数つける
- ・果実:5~6月、黄色く熟す



葉

- ・表面：濃緑色、毛ははじめ多いがのち無毛となる
- ・裏面：淡褐緑色、全面に毛が密生
- ・中上部に粗い鋸歯
- ・葉先は鋭頭



○分布

中国原産

関東以西の本州、四国、九州、中国に分布

○語源

中国名「枇杷」の音読み。古くはヒワと呼ばれていた。

実の形が、楽器の琵琶に似るため。

○生活とのかかわり

・果実→橙黄色に熟して食べられる

・葉

→タンニンのほか、アミグダリンや有機酸などが含まれ、下痢止め、せき止め、暑気あたり効く

→あせも、湿疹に、煎液の冷めたもので、患部を洗うとよい

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.66

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.241

フジ(*Wisteria floribunda*) - マメ科フジ属

樹木全体

- ・低木～小高木
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・灰褐色～灰白色
- ・網目状に裂け、ざらつく
- ・つるは右巻きに、他の木に巻きついて大きくなる

花・実

- ・花期:5月
- ・花:蝶形花、ふじ色～白色
- ・果実:15~20cm、さやの表面に短毛が密生



葉

- ・奇数羽状複葉
- ・小葉:4~6対
- ・表面:濃緑色 ・裏面:淡緑色
- ・全縁 ・先端は鋭尖頭



○分布

本州、四国、九州

○語源

古代に蔓から藤布や縄、籠を作ったことが背景にある。
布織り作業の「経(タテイト)を打つ」ことから経(フ)打(ウ)ちとなり、それが変化したと推測される

○生活とのかかわり

- ・普通に山地に生え、かなり大きくなってから花がつく
- ・庭木、公園樹で見られる

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.83

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.258

ミカン(*Citrus unshiu*) - ミカン科ミカン属

樹木全体

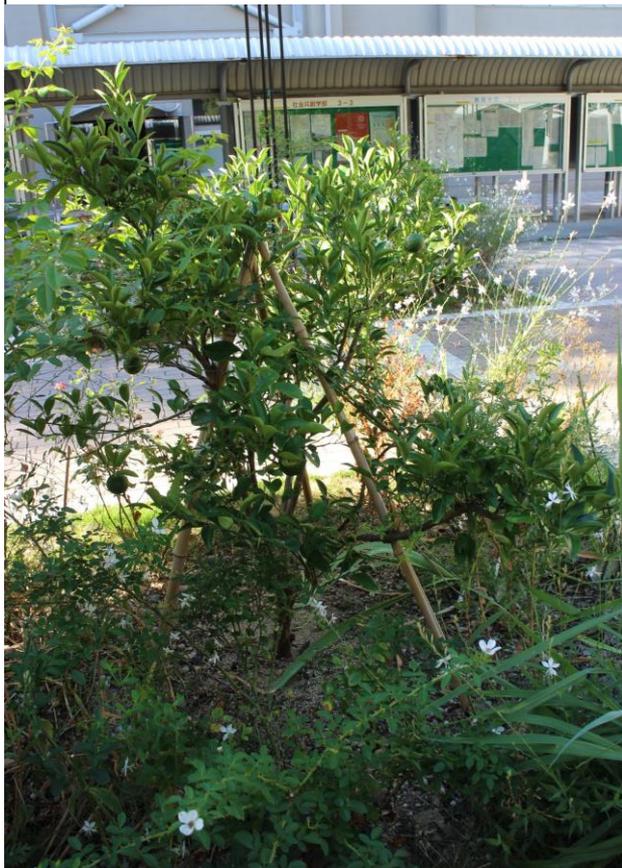
- ・低木(3~4m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・暗褐色
- ・滑らか
- ・縦縞がはいる

花・実

- ・花期:5月
- ・花:白い、両性花
- ・果実:9~12月、熟すにしたがい緑色から橙色に変化



葉

- ・縁には浅い鋸齒、ほとんど全縁
- ・質:革質
- ・表面:光沢がある
- ・葉先は鋭頭



1cm

○分布

本州(関東以西)、四国、九州

○語源

甘い柑橘の意味で蜜柑と書き当初はミツカンと読んだ。

○生活とのかかわり

- ・食用のミカンの木は、カラタチを台木にして、改良種の枝を接ぎ木してつくられる。
- ・果樹として広く栽培されている
- ・果実→日本の代表的な果物、一般的にミカンは温州ミカンのことを指す
- ・材は硬く、仕上りもよい→ 象骸細工、炭の材料など

モッコク(*Ternstroemia gymnanthera*)

-ツバキ科モッコク属

樹木全体

- ・高木(5~10m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・淡灰褐色

花・実

- ・花期:6~7月
- ・果実:球形、秋に赤く熟す



葉

- ・厚くてかたい
- ・表面：濃緑色、やや光沢がある
- ・裏面：淡緑色
- ・全縁 ・葉先は鈍頭、円い

○分布

本州(千葉県以南西)、四国、九州

○語源

蘭の一種の「セッコク」に花が似ている事から、中国名「木香」を誤用したもの

○生活とのかかわり

- ・丈夫で長生きし、樹形も整う→庭木
- ・硬く、強くて粘りがある、切削・加工は容易ではないが、旋作にはよい、耐朽・保存性は高い
→ 床柱・家具・木象眼など
- ・樹皮→茶褐色の染料を取る



1cm

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.67

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.90

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.

モミジバフウ (*Liquidambar styraciflua* L.)

- フウ科フウ属

樹木全体

- ・高木(20~25m)
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・淡紅褐色
- ・浅く縦に裂ける

花・実

- ・花期:4月
- ・果実:球形、秋~冬にさび色に熟す



葉

- ・表面：濃緑色、無毛
- ・裏面：葉脈上にけがある
- ・葉縁は5~7裂、細かい鋸歯



○分布

北アメリカ原産

○語源

カエデの葉に似たフウの意。フウは漢名「楓」の音読み。

○生活とのかかわり

- ・材→建築用材、器具材、土木用材、ベニヤ用材などに
- ・樹皮→樹脂をとり、薬用とする
- ・木は庭園、公園、街路樹用に植栽される

『木のぬくもり・森のぬくもり モミジバフウ』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.70

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.160, 161

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.203

モモ(*Prunus persica*)-バラ科モモ属

樹木全体

- ・小高木(3~5m)
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・暗褐紫色
- ・縦に不規則に割れ目

花・実

- ・花期:4月
- ・花:紅色、白色
- ・果実:7~8月、球形、表面に短毛が密生



葉

- ・表面：濃緑色
- ・裏面：緑色
- ・両面とも葉脈上にわずかに毛がある
- ・細かい鋸齒
- ・葉先は細長い鋭頭



○分布
中国原産

○語源

マミ(真実)、実の赤いところからモエミ(燃実)の転じたものである

実が多くつくので、モモに通ずるものである

○生活とのかかわり

・桃の節句→女の子の祭りとして災厄をはらうという古代信仰の伝統によるもの

・果実→夏の果物の女王。品種も多く、「水蜜桃」「大久保」「白桃」「白鳳」など

・種子→漢方では、消炎、鎮痛などの目的で、婦人病などの処方に配剤

・花→漢方では、利尿、緩下薬としての処方に配剤

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.74

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.219

ヤツデ(*Fatsia japonica*)

-ウコギ科ヤツデ属

樹木全体

- ・低木(2~4m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・灰褐色
- ・葉柄のあとが目立つ

花・実

- ・花期:10~11月
- ・果実:球形、はじめ白色で翌春に黒く熟す



葉

- ・表面：濃緑色、光沢がある、無毛
- ・裏面：淡緑色、毛は葉脈基部に残る
- ・葉縁は7~11深裂、鋸歯
- ・葉先は鋭尖頭



○分布

本州(茨城県以西)、四国(太平洋側)、九州(南部)

○語源

葉が掌状に多裂するための名。しかし、裂数は8つではない。裂状の葉の裂片は、通常奇数になる。ヤツデも9裂が多い。

○生活とのかかわり

- ・葉→乾燥させたものは生薬になり、去痰などの薬として用いられる。しかし、過剰摂取すると下痢や嘔吐、溶血を起こす
- ・手の形の大きな葉が人を招くと言う縁起
 - 玄閼脇に植えられた
 - ・日陰でも育つ→庭の隅や中庭などに植えられた
 - ⇒庭木として植えられたが、最近は野生化したものが多い

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.99

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.164

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.324

ヤマゲワ (*Morus australis*) - クワ科クワ

屋

樹木全体

- ・低木～小高木(3~6m)
- ・互生
- ・落葉樹

樹皮

- ・灰褐色
- ・縦にすじがあり、薄くはげる

花・実

- ・花期:4~5月
- ・果実:集合果、熟すと赤色から黒紫色となる



葉

- ・表面：緑色、短毛を散生
- ・裏面：灰淡緑色、葉脈上に毛がある
- ・葉縁は2~5裂、あらい鋸歯



○分布

北海道、本州、四国、九州

○語源

山に生えるクワの意

クワの旧仮名は「クハ」、蚕がその葉を食うさまから、食(クハ)れるものとしてついた名

○生活とのかかわり

- ・木材としての蓄積はきわめて少なく貴重。
- ・美しい杳の出ることが多い、保存性は高い、磨けば年月を経ると褐色の光沢が出て雅味が出る
→床柱・床板、鏡台・峯為など
- ・心材は暗黄褐色、材はやや重硬で心材の耐朽性は高い
→建築装飾材、家具、楽器、器具、基石等など

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.58

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.154, 155

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.160

ヤマモモ(*Myrcia rubra*)

- ヤマモモ科 ヤマモモ属

樹木全体

- ・高木(10~20m)
- ・互生
- ・常緑樹

樹皮

- ・灰色
- ・古くなると縦の割れ目が入る

花・実

- ・花期:4月
- ・果実:球形、6月ごろに赤褐色に熟す



葉

- ・淡黄色の透明な腺点がある
- ・両面とも無毛
- ・全縁、若い木の葉に鋸齒
- ・葉先は短く鋭尖頭



○分布

本州(関東南部・福井県以西)、四国、九州

○語源

山で食べられる実がなることからの名
あるいは中国名「楊梅(やんめい)」からの変化

○生活とのかかわり

- ・大気汚染には強く、乾燥地にも強い
→街路樹、公園樹に利用
- ・庭園樹→成長は遅いが萌芽力があるので、剪定することにより、樹形を損なわずに維持できる
- ・果実→そのまま食べられるが、傷みやすい
- ・樹皮を日干しにしたものを揚梅皮といい収斂利尿などの薬用に、草木染に使われる

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.47

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.93

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.123

ユリノキ(*Liriodendron tulipifera*)

-モクレン科ユリノキ属

樹木全体

- ・高木(15~25m)
- ・互生
- ・落葉樹



樹皮

- ・若木では平滑
- ・不規則な裂け目
- ・灰黒褐色



花・実

- ・花期:5~6月
- ・花:黄緑色、基部に橙赤色の斑紋
- ・果実:集合果、一つの花に約100個の実になる

葉

- ・表面：緑色、光沢がある、無毛
- ・裏面：灰白緑色、葉脈上に毛がある
- ・葉縁は大きく4~6裂、各裂片の先は鋭く尖る



○分布

北アメリカ原産

○語源

花の形は、ユリと言うよりはチューリップ。当時は、英名の元のチューリップも、日本では珍しかったため、「ユリ」になった。学名はチューリップのようなユリの意。

○生活とのかかわり

- ・生長が速い→街路樹・庭木・公園樹
- ・乾燥が楽であり、割れにくい。狂い、ねじれもない。刃物の通りはよく、釘も打ちやすく、糊や塗料の着きもよい
- 器具・建築・合板・楽器・ソーダパルプなど

『木のぬくもり・森のぬくもり』 <http://www.jugemusha.com/jumokuF.htm>

『世界の樹木』 <http://www.wood.co.jp/woo>

岩瀬徹・川名興(1991)『校庭の樹木』全国農村教育協会 p.59

林将之(2004)『葉で見分ける樹木』小学館 p.170

馬場多久夫(1999)『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 p.170